

凸版刷り

(100分)



完 成



【完成！】 版を重ねて刷ることで、1回の刷りでも多色刷り版画となる。海のグラデーションと道具やいきものの色のコントラストが美しい作品となった。このあと、各自が画面の下にサインを入れて完成した。



【記念撮影】 アトリエで出来たばかりの作品を持って記念撮影を行った。コロナ対策のため時間を短縮して制作したが、どの作品も完成度が高く、海のいきものによる楽しいサークス団が出来上がった。

展覧会

『紙版画でつくるドキドキ海の大サークス』展

会期：2021年8月11日（水）～8月14日（土）10:00～17:00

※8月11日（水）は13:00から、8月14日は（土）は15:00まで

会場：町田市立国際版画美術館 市民展示室A室



2日目に制作した多色刷り版画を簡易額装し展示了。作品の横にはワークシートと感想文を貼り、完成作品と構想、そして制作を通して感じたことなどが分かるように展示了。また、子どもたちの様子と制作工程をパネル展示とビデオで上映した。また、先回に引き続き、使用した版でモビールを制作し、サークスの楽しいイメージを出すための装飾も行った。さらに、指導にあたった大学生の作品14点を展示し、来場者に様々な版画表現を知ってもらい、版画への興味を持ってもらった。4日間の展示期間であったが、193名が子どもたちの作品を鑑賞した。



受講者の声（感想文より一部抜粋）

►リュウグウノツカイのつなにのっているところを見てほしいです。（3年）
►なんどもやり直していいへんだったけど、とても楽しかった。またやってみたい。（4年） ►せいこうするか不安でしたが、きれいにできてうれしかったです。すごい経験もできました。先生たちとなかよくなれて、よかったです！（4年） ►まわりにいろいろな生き物たちも見てほしいです。最初は作れなかった生き物たちをまわりに描けたのでよかったです。（5年） ►インクをつける時にうまくされているか心配だったけれど最終的に自分でなっ得のできる作品ができて、うれしかったです。（6年）

学生ボランティア

後藤 ゆり恵 佐藤 穂香 山井 千影 加藤 和 川島 美月
趙 嘉琪 峯山 文萌 森下 真衣 横田 奈帆 赤坂 桜子
伊藤 紗也花 岩崎 さくら 上原 加菜 及川 珠希
久保 瑠華 藤谷 あかり 渡邊 萌香

2021年度「夏期子ども講座」活動報告書

発行年月日 2021年10月30日
編集・印刷 東京学芸大学版画研究室 清野泰行
発行 町田市立国際版画美術館

2021

町田市立国際版画美術館
2021年度夏期子ども講座活動報告書

紙版画でつくるドキドキ海の大サークス ～ゆかいな海の大サークス団を版画でつくろう！～



紙版画でつくる ドキドキ海の大サーカス

町田市立国際版画美術館では、子どもたちが美術館に親しむことをねらいとして、2006年から継続的に「夏期子ども講座」を実施しています。当初から東京学芸大学版画研究室の清野泰行教授の企画協力により、さまざまな版画技法を取り上げ、制作する楽しさをじかに体験してもらう場を提供してまいりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2年振りの開催となりましたが、子どもたちが明るい気持ちになるようにと「サーカス」をテーマにした講座内容をご覧ください。

講座概要

タイトル：「紙版画でつくるドキドキ海の大サーカス」
内 容：厚紙を使った多色刷り凹凸版画で、色々な海の生きものによる空想大サーカスのワンシーンを作る
日 時：2021年7月31日（土）、8月1日（日）13:00～16:00
会 場：町田市立国際版画美術館 アトリエ・版画工房
対 象：両日とも参加できる小学3～6年生 定員：16名（応募者総数：91名）受講料：2,000円
指 導：東京学芸大学 清野泰行教授および同大学在学生
募集期間：6月11日（金）～7月15日（木）6/24, 25を除く
主 催：町田市立国際版画美術館 企画／協力：国立大学法人東京学芸大学

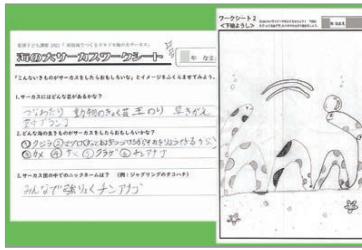
準備するもの

下 絵：ワークシート（受講者に事前配付）、オリジナル図案集、トレーシングペーパー、その他
版制作：ドライポイントプレート（板紙凹凸版 19.5 × 27 cm）2枚、補強用塩化ビニールシート
アクリルメディアム、ボールペン、筆、カッターナイフ、ハサミ、その他
刷 り：SN-画学紙TMK・画用紙厚口（八つ切り）、サクラ版画絵具油性、ゴムローラー、紙へら、インクトレー
寒冷紗・人絹（インク拭き取り用）、新聞紙、水張りテープ、銅版プレス機、その他

1日目

下絵制作

（所要時間 25分）



【ワークシート】事前にワークシートを配付し、「こんな生きものが、サーカスをしたらおもしろいな」というアイデアを考えてもらい、そのイメージをもとに下絵を描いてきてもらった。

紙版制作

（ 85分）



【生きもの版 制作1】下絵をトレーシングペーパーに写し、それを裏返して板紙にトレースした。刷りの段階で版が破損しないように、板紙の裏面には、あらかじめ塩化ビニールシートを貼っておいた。



【凹凸版画の解説】板紙凹凸版画は、図工の時間で経験することがほとんどない。今回は、密にならないよう実演をせず、パワーポイントを使って、どのような工程で印刷するのか分かりやすく説明した。



【生きもの版 制作2】ボールペンで強く描いた部分や紙の表面をはがした部分（グレー部分）は、黒インクで印刷すると黒い線や面となる。また、メディアムを塗ったところは、印刷するとグレーの面になる。描画後、生きもの等の形にハサミで切り取った。

凹版刷り

（ 50分）



【インクをのせる】ローラーを転がしながら、インクを紙版の上にのせていく。凹部にインクが入り込むように、紙へらを使ってしっかりとインクを詰め込み、紙版の表面に残った余分なインクを丁寧に取り除いた。

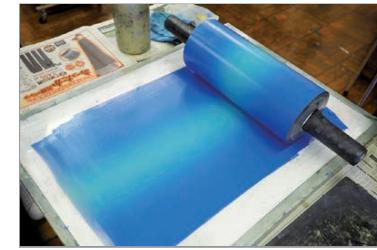


【プレス機による印刷1】紙版へのインクのせ・拭き取りはアトリエで行い、印刷は隣の工房に移動して行った。子どもたちは銅版プレス機の大きなハンドルを回して刷りを楽しんだ。

2日目

背景版の制作

（所要時間 25分）



【背景版の制作】背景の版全面に、グラデーションとしたインクをローラーで付ける。2色のインクをインク台にのせ、ローラーを左右に少し動かしながら前後に転がして美しいグラデーションを作成した。



【道具の版（凸版）の制作】道具の版は凹版刷りをするので、色を付けたくないところは、カッターナイフで切り抜くか、浅く切れ込みを入れ、紙の表面を厚めにはがした。



【拭き取り】最初に寒冷紗を使ってインクを拭き取ったのち、人絹でさらにきれいに拭き取った。初めは拭き取りに戸惑っていたが、慣れてくると手際よく、インクを拭き取ることができるようになった。



【プレス機による印刷2】紙をめくるまで、どのように刷られているのか分からぬところに、版画の面白さがある。子どもたちは版の上のインクが紙にしっかり写されていることを確かめていた。



【背景版の描画】背景の版全面に、インクを付けてから、先の尖ったもので表面のインクを引っ掻いて取り除く。印刷すると描画したところは白抜ける。



【道具の版にインクをのせる】出来上がった道具の版にローラーでインクを付ける。紙を剥がしたところは凹状になっているため、インクが付かない。軽い力でローラーを転がすことで凸部だけにインクが付く。